

平成28年千葉市教育委員会会議
第4回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成28年千葉市教育委員会会議第4回定例会会議録

日時 平成28年4月20日(水)

午後2時00分開会

午後3時10分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 中野 義澄
委 員 内山 英夫
委 員 和田 麻理
委 員 明石 要一
委 員 小西 朱見
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 森 雅彦 県 費 移 譲 課 長 大野 治充
教 育 総 務 部 長 矢澤 正浩 指 導 課 長 福本 順
学 校 教 育 部 長 伊藤 裕志 保 健 体 育 課 長 中村 宏
生 涯 学 習 部 長 大崎 賢一 教 育 セ ン タ ー 所 長 増澤 保明
千 葉 高 等 学 校 長 川崎 浩祐 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 植草 伸之
稲 毛 高 等 学 校 長 植草 茂生 生 涯 学 習 振 興 課 長 増岡 忠
総 務 課 長 國方 俊治 文 化 財 課 長 補 佐 芦田 伸一
参 事 兼 企 画 課 長 大橋美帆子 中 央 図 書 館 長 松尾 修一
学 校 施 設 課 長 真田 賢一 総 務 課 総 括 主 幹 山田 利雄
学 事 課 長 大井 力 学 事 課 長 補 佐 浅井 滋
教 職 員 課 長 山下 敦史

書 記 総務課総務班主査 大須賀隆之 総 務 課 主 事 坪山 耕太
総務課主任主事 佐久間暁子

(開会に先立ち、出席職員の紹介を行った。)

1 開会

内山委員長職務代理者より開会を宣言

2 会議の成立

全委員の出席により会議成立

3 会議録署名人の指名

内山委員長職務代理者より明石委員を指名

4 会期の決定

平成28年4月20日(1日間)ということで全委員異議なく決定

5 議事日程の決定

議事日程を全委員異議なく決定

6 会議録の承認

平成28年第2回定例会及び第1回臨時会会議録を全委員異議なく承認

7 議事の概要

(1) 委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定

旧地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条並びに旧千葉市教育委員会組織規則第3条及び第4条の規定に基づき、委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定が実施された。

(2) 報告事項

報告事項(1) 陳情について

総務課長より報告があった。

報告事項(2) 平成28年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について

山下教職員課長より報告があった。

報告事項(3) 市立高等学校の進路状況について

川崎千葉高等学校長及び植草稲毛高等学校長より報告があった。

(3) 臨時代理報告

報告第4号 千葉市育英資金支給条例施行規則の一部改正について

大橋企画課長より報告があった。

(4) 発言の要旨

委員長選挙及び委員長職務代理者の指定

ア 委員長の選挙の方法の決定

内山委員 それでは、旧教育行政の組織及び運営に関する法律第12条及び旧千葉市教育委員会組織規則第3条の規定に基づき、委員長の選挙をとり行います。本日、平成28年4月20日から委員長

をお務めいただく方をお選びすることとなります。

選挙の方法ですが、旧組織規則第3条第2項の規定により、選挙の方法は委員が協議して定めるところによるとなっておりますが、いかがでしょうか。

志村教育長 例年どおり指名推選の方法がよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

内山委員 ただいま指名推選の方法でとの提案がございましたが、いかがでしょうか。

全委員異議なく、委員長の選挙の方法を指名推選とすることと決定した。

イ 委員長の選挙

内山委員 それでは、どなたかこの4月20日から委員長の職をお務めいただく方をご推薦いただけますでしょうか。

明石委員 引き続きまして中野委員を委員長に推薦したいと思っております。よろしくお願ひします。

内山委員 ただいま中野委員をご推薦いただきましたが、ほかにどなたか別の方を推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、ほかにご推薦ないようですので、中野委員が引き続き委員長を務めさせていただくこととなりますが、よろしいでしょうか。

全委員異議なく、中野委員の委員長就任が決定した。

ウ 委員長職務代理者の指定

中野委員長 職務代理者の指定の方法は、旧地方行政の組織及び運営に関する法律第12条第4項及び旧千葉市教育委員会組織規則第4条の規定により、委員長である私より推薦させていただき、皆さんの同意を得るということで決定したいと思ひます。

私からは、内山委員を職務代理者として推薦したいと思ひますが、内山委員、そして皆さん、いかがでしょうか。

全委員異議なく、内山委員の委員長職務代理者就任が決定した。

報告事項(1) 陳情について

中野委員長 総務課長、報告をお願いします。

國方総務課長 報告事項(1)「陳情について」、報告します。

千葉市教育委員会決裁規定第4条の規定により、教育長決裁により陳情を処理しましたので報告するものでございます。

「教育委員会会議の無記名投票採決についての要望書」という陳情が届きました。

内容としては、次の2点を要望しております。

1つとして、教育委員会議の採決は、傍聴者、市民に公開し、各教育委員がどのような判断をしたのかが明らかになるようにすること。2つとして、無記名投票は、各教育委員の判断の記録すら作成しないという極めて無責任な採決方法であるため、実施しないこと。

重要でないと判断した理由ですが、本件陳情については、平成26年5月に陳情者から同内容の要望書が送付されており、同年8月に行われた教育委員会会議第2回臨時会において不採択とすることが議決されていることから、教育長決裁により不採択とし、平成28年3月31日付で結果を通知しました。

説明は以上でございます。

中野委員長 それでは審議に移りますが、質問等含めまして何かございますでしょうか。

今、説明にありましたように、このことに関しましては、この場で議論して不採択ということにした同じ内容ですので、このとおりでよろしいでしょうか。では、報告のとおりにさせていただきます。

報告事項(2) 平成28年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について

中野委員長 教職員課長、報告をお願いします。

山下教職員課長 報告事項(2)「平成28年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について」、報告します。

管理職人事については、3月9日の教育委員会会議第1回臨時会で議決いただきました。3月14日に各学校に内示を行い、30日に辞令交付式を実施し、4月1日には異動者が異動先に着任いたしました。

各学校では新年度の体制となったところでございますが、改めて人事異動の概要について報告いたします。資料をご覧ください。

まず、本年度の異動総数ですが、小・中・特別支援学校を合わせまして1,155人、昨年度末より136人の減となっております。

また、新規採用教員数ですが、小学校105人、中学校72人、特別支援学校10人、計187人、昨年度より11人の増となっております。そのほか養護教諭7人、事務職員9人、栄養職員3人、合わせて19人を新たに採用いたしました。これにより、平成19年度以降、本年度までの10年間において、教員数小・中・

特別支援・養護教諭の合計が1,890人の新規採用教職員を採用したこととなります。

次に、管理職の登用でございますが、校長の新規登用数は27人、副校長の新規登用者は1人、教頭の新規登用数33人で、昨年度より校長は24人減、副校長は1人増、教頭は21人の減でございます。昨年度は、校長の退職者が減少したことにより登用が全体的に減っております。

また、管理職のうち女性管理職の数でございますが、校長24人、副校長1人、教頭26人の合計51人でございます。昨年度より2人の減となっております。女性管理職の割合は、この数年來14%から15%で推移をしております。

最後に、同一校の7年以上の勤務者の解消率でございますが、小中学校とも昨年度並みに解消され、学校の活性化につながっていくものと思われまふ。なお、産休、育休、休職、療養休暇中等により異動が困難となる見込みのある者については、校長の裁量権の拡大により残留させることは含まれておりません。これについては含まれておりません。

以上でございます。

中野委員長 それでは審議に移りますが、質問等含めまして何かございますでしょうか。

明石委員 管理職の登用のところでお聞きしたいんですけども、今年で一番若い男性と女性の年齢を、わかれば教えてほしいんです。

山下教職員課長 校長のほうでよろしいですか。

明石委員 はい。

山下教職員課長 校長は新規登用で、28年度の4月1日で54歳です。

明石委員 これは男性、女性。

山下教職員課長 男性です。

明石委員 女性の校長の新規の方がいるかは。

山下教職員課長 新規はおります。57歳です。

明石委員 女性管理職が物すごく頑張ってくれて、14.7%になりましたよね。これは意見ですけども、お願いしたいのはやっぱり30%になるのをいつかおさえておいて逆算するということが大切です。国会議員の女性比率もやっぱり一つの目安は3割、中央教育審議会の委員の方も女性が3割というのをめどにやってきているんですよね。そういうことを掲げて、来年からは千葉県独自に採用できますから、そういう30%達成を目指してほしいの

が1点、これは要望です。

2点目は、意図的に30代後半から40代前半の教頭、校長を試験的に雇用、育成していくということをやっていないと、非常に先が見えなくなってきたかなという感じがしているんです。そういう意味で難しいか知りませんが、少し意図的にそういう教頭、校長を育成するキャリアパスといたしましょうか、例えば指導主事で35歳の方を採用して、5年ぐらいしてまた出してくるとか、何かそういうことを含めて管理職育成方法を教職員課のほうで検討してもらえないかなというのが要望です。

それで、意見なんですけれども、例えば、今年千葉大学の新しい新学部で国際教養学部ができました。定員80名で90名とったんですけれども、女子学生が男子学生より割合がおい傾向にありました。。ある大学で、この3月卒業したところで各壇上に上がって賞状をもらう方が13名いまして、女性が12名、男性1名。要するに言いたいのは、結構高校卒業、大学卒業の中で女性がかかなり社会的に評価されつつある中で、教員のほうはどうか知りませんが、ぜひそういうたくましい女性が出現しつつあるのだから、もう少し教員の世界でもそういうルートを開拓してくれるとうれしいかなというのが私の意見です。

以上。

小西委員 今の明石委員のところに関連して、女性管理職数なんですけれども、昨年末に文科省のほうで発表された学校基本調査のほうでも、小中学校の女性管理職の割合が全国的には24.9%なんですよね。それに比べて、やっぱり千葉が低いなという印象を受けたんです。千葉市において女性管理職がこれだけ低くなっている、徐々には増えてきているとは思いますが、その課題といいますか、何がネックなのかというところを、どういうふうに把握されているのか教えていただけないでしょうか。

山下教職員課長 現在、状況的には校長、教頭、よく副担と言われる教務主任ですけれども、教務主任の女性の登用がかかなり増えておりまして、現在56人で、パーセンテージでいきますと32.7%、これは今までにない数字なんです。その部分で今、明石委員からもございました育成については、その部分で我々のほうもかかわっている状況でございます。

小西委員 教務主任以上の校長とか、教頭へのステップアップがなかなか難しいということなんですか。

山下教職員課長 この時代、今おっしゃられたとおり、女性に対してもたくさんということで、教務主任のほうで活躍をしている方が増えてきております。

小西委員 そうすると、今後は校長、教頭の割合も少し増えていく可能性があるということですか。

山下教職員課長 あります、はい。

小西委員 この数字、割合の数字も大事だと思うんですけども、やっぱり育児、家事との両立がなかなか難しいというところが、全国的に同じ状況だと思うんですが、女性がキャリアかそれとも育児・家事の二者選択しなきゃいけないような、そういう環境を改善していくということが一番大事だと思います。さらに、性別役割分担意識って、なかなかすぐに変えられるものではないと思いますので、毎年継続的にチェックする体制、ちゃんと環境改善ができていくのか、どこかがちゃんとチェックする体制というのを整えていってほしいなと思います。これは要望です。

志村教育長 志望者がいないです。

小西委員 なぜいないんですかね。

志村教育長 育児のほうにというか、現在では、どうしても家事の面を大切にされているところです。もう一つは、今回もこれだけの方を新規で採用しているのは退職者が多いということなんですけれども、定年前に介護等の理由で退職される方のかなりの部分は女性です。その人たちがちゃんと勤めていただければ、その中からもちろん管理職候補になるケースはあるんですけども、学校の場合にはいきなり校長や教頭にするわけにはいきませんから、その前の段階で希望しない方が多かったです。しかし、このように今回、34%の教務主任を増やしたのは、その部分を育てていかない限り、次の教頭、校長をふ増やせない、そういう意味で今回はしました。

それから、教育委員会の中にも、指導主事の上の統括指導主事や教育センターの副所長等は女性を登用することによって、教育委員会の中の管理職についても登用することを今年度はかなり意図的にやっています。それにしても、大変申しわけないんですけども、すぐに人材が見つからないという、これまで育てていなかったと言われてしまえばその通りなのですが、推薦しても家事等の都合で辞退するケースは女性のほうが多いというのは現状であります。

何とか新しく教務主任になっていただいた方々にはこれから先、次のステップアップをするようにこちらのほうもバックアップしていきたいなと考えております。けれども、かなりやっぱり時間がかかる、それから社会の風土というものがもう少しそれを理解していくということが相まって少しずつでも実現するのではないかと考えています。今回そういう部分で、この見えない部分で教員を増やしておりますので、これから先3年、5年後、千葉市の独自の採用になったときに状況がどうなるかということをご期待したいと思っております。

以上でございます。

和田委員 今、お話にもありましたけれども、やはり女性は希望する人が少ないということは、家庭の中の問題ということが非常に大きいのかなというふうに思うんですね。そうすると、教育委員会だけで解決することはなかなか難しいですよ。今、市長部局のほうでも男性の育児参加であるとか、そういったイベントも数多くしていて、男性が積極的に育児にも参加する、介護にも参加するというような風土を提唱してきています。その部分で市長部局と連携し合っていないと、なかなか教育委員会の中だけで数字的なものを上げようとしても根本的なものがその家庭の中での役割ということにあるのだとしたら、やはりそこが重要になってくるのかなと思いました。

志村教育長 ちなみに、昨年度までは議場の説明員は全員男性ですから、そういう形で確かということ。学校の場合は比較的女性員が多いですから、その中で管理職にも候補をつくりやすいと思われませんが、全体的にそういう部分の意識改革ができることが何よりも大事なことだと思いますね。

和田委員 違う話になるのですが、同一校7年以上の勤続者ということなんですが、この7年以上の方というのはどういった理由でこれを越えているかわかりますか。

山下教職員課長 主に育休明けの方で、要はずっと休まれていて、その学校で1年育休する方と、療養休暇をとっている方、あと休職をされている方の数がここに入ると思います。

和田委員 そうすると、ほとんどそれ以外の方は7年で。

山下教職員課長 ほとんどが7年で、あと学校の実情で校長の裁量権として残っている方がいます。

和田委員 すみません、すごく基本的な質問なのですが、この7年とい

うのはどういう目安で7年ぐらいというように大体決まっているんでしょうか。

山下教職員課長 人事異動方針の説明で新任3年、以降で7年ということで、やはりたくさん学校を経験することによって伝える力を高めていく、そういった部分についての細目にのっとりやっております。

和田委員 半端なんですけれども、わかったようなわからないような感じがしました。

志村教育長 教務主任が根づいてほしいですね。

中野委員長 ほかによろしいでしょうか。

報告事項(3) 市立高等学校の進路状況について

中野委員長 千葉高等学校長、稲毛高等学校長、順に報告をお願いします。

川崎千葉高等学校長 報告事項(3)「市立高等学校の進路状況について」、報告し最初に、卒業生の人数及び進路決定状況についてご説明させていただきます。

平成27年度卒業生は、普通科285名、理数科38名、合計323名でございます。

続いて、進路決定状況を記載しております。進路先といたしまして、平成27年度は大学、文系、理系への進学を合わせて249名、浪人が67名、その他として7名となっておりますが、内訳は短大2名、専門学校5名、就職はゼロ名でございます。

なお、専門学校の中には、外国の語学学校に進学し、現地の大学進学を目指している者もおります。平成27年度の進路決定率は79.3%でございます。前年度は78.1%でしたので、ほぼ例年並みの結果となっております。

次に、大学合格者数についてご報告いたします。

これらの表は、大学合格者数の過去3年間の推移を現役プラス浪人と現役のみに分けて示したものでございます。最初に国公立大学ですが、27年度の合格者は現役55名、浪人23名、合計78名でございます。合格先といたしましては、大阪大学、東京工業大学、東北大学、一橋大学などであり、千葉大学は現役が31名、浪人9名の合計40名となっております。

次に、私立大学でございます。私立大学については、現役合格者数を報告いたします。

なお、私立大学は、国公立大学と違いまして、1人の生徒で複数の合格を得ることがありますので、合格者数は延べ数となっております。

おります。

最初に難関私立大学ですが、早稲田25、慶應3、上智9、東京理科33となっております。早稲田は、26年度の倍以上の合格者を出しております。MARCHについては資料に記載のとおりですが、明治、立教、中央、法政に26年度を上回る合格者を出す結果となっております。

次に、本校の学科別の現役の大学合格者数でございます。

国公立大学においては、普通科285名中45名が、理数科においては40名中10名が合格をしております。

なお、国公立大学、難関私立大学、MARCHの合格者率につきましては、表にあるとおりでございます。

最後に、国公立大学の受験者数及び千葉大学の受験合格状況についてご報告いたします。

国公立全体の中で前期入試受験者の推移を見てみますと、25年度は126名で卒業生の約39%、26年度は144名で約45%、27年度が133名で約41%でございます。また、その中で千葉大学受験者がかなりの割合を占めており、本校の多くの生徒が千葉大学を目標としていることがわかります。

表に千葉大学の受験及び合格の状況を掲載しておりますが、27年度は医学部を除く各学部で114名の現役生が受験し、31名が合格する結果となっております。

以上、簡単ではございますが、進路概要について報告をさせていただきました。

大学及び学部別の合格状況につきましては、後ほどご確認いただければと思います。

それでは次に、今回の大学入試結果の特徴について触れさせていただきます。

現役生の国公立大学の合格者は55名でございました。進学型単位制導入の平成19年度以降、国公立大学の現役合格者数は40名から47名の間で推移をしておりましたが、昨年、26年度は70名、これは過去最高の結果でございました。今年度、27年度はそれに続く過去2番目の合格者を輩出しております。本校では、国公立大学進学を大きな目標とし、進路指導に取り組んでおります。少子化により大学レベルが両極化する中、依然として国公立大学は難易度が高く、さらにスーパーグローバル大学の指定を受けた大学は特に難化をしております。生徒の目標とする千

葉大学はその指定を受けております。国公立大学の中でもレベルは高くなっております。そこに現浪合わせて、昨年並みの40名が合格できたことは評価できるものであります。

加えて、進路決定状況がほぼ同じ割合の中、この2年間、国公立大学に多く合格者が出ていることは、第1希望とする大学への進学を実現する生徒が増えているものでございます。これにつきましては、本校の教員の指導の一定の成果があらわれているものと考えております。

そして、早稲田、東京理科など、難関私立大学にも昨年を上回る合格者を出すことができました。私立志向の生徒にも良い影響を与えたものと考えております。

次に、資料にはございませんが、SSHに関する進路状況を説明いたします。

今年は、2代目となる普通科SSHコースの生徒28名が卒業いたしました。現役での大学合格者が24名、浪人は4名でございます。国立では千葉、信州、難関私立大学では早稲田、慶應などに合格しております。SSHコースの生徒は、大学入試間近になって急に成績が伸びていくとの印象を持っております。これは、2年時に導入されている課題学習への取り組みや3年時の少人数による講座展開などが成果につながっているものと考えております。

最後に、この機会に本校の学習面における取り組みや当面の課題についてご説明を申し上げます。

昨年度から、1、2年生を対象に本校独自の記録用ダイアリー、そちらにご用意してあります「STUDY RECORD」という冊子でございますが、これを配布しまして、目標や学習の記録をつけることで、生徒自身がPDCAサイクルを用いた自己を管理する方法を導入いたしました。「STUDY RECORD」を定期的に提出させ、内容を確認し、勉強のアドバイスをすることで学習習慣の定着に大きな役割を果たしています。引き続き、きめの細かな指導を行ってまいります。

また、50分7限授業についてですが、生徒、教員とも意欲的に取り組んでおり、既に定着しつつあります。これらのことをしっかりと取り組むことで生徒の進路実現につなげるとともに、これからも生徒自身が自学自習習慣を身につけ、最後まで諦めずに頑張るよう指導を行ってまいります。

次に、SSHについてですが、おかげさまで平成28年度科学技術人材育成枠の採択を受けることができました。千葉市教育委員会のご指導のもと、本校のSSHが職員全体で取り組んでいることや生徒の教育に重点を置いた授業内容であること、さらにクロスカリキュラムへの組織的な取り組みが評価されたものと思います。

今後は、第2期最後となるこの1年をより充実させるとともに、12月ごろに計画書の提出が予定されている第3期SSH研究指定の採択に向けて先進的な内容の検討と準備を進めてまいります。

継続の採択はかなり難しいと言われていますが、何としても採択されるよう関係の皆様方とともに全力で取り組んでまいりますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

植草稲毛高等学校長 稲毛高校については、1学年当たり普通科が7クラス、国際教養科が1クラスで構成されております。普通科の2クラス分が附属中から上がってくる生徒という形になります。平成27年度は、男子144名、女子168名、合計312名の卒業生が出ております。平成19年度に併設されました附属中学校も今年度第4期生が卒業いたしました。

卒業生の進路状況ですが、国公立大学に男子が16名、女子19名、合計35名が進学し、私立大学に男子103名、女子123名の合計226名が進学しました。また、短大については、女子が2名、専門学校については男子が2名、女子が8名の合計10名が進学し、男女それぞれ1名ずつが公務員として就職しました。残りの男子22名、女子15名が次年度進学希望者、いわゆる浪人という形になります。

今回の進学実績は今言ったとおりですが、合格実績については、国公立大では昨年度の36名に対し、微増ではありますが37名、具体的には東京工業大学に1名、名古屋大学に1名、東京外国語大学に1名、千葉大学に19名が合格しました。また、過年度卒業生ではありますが、東京大学、お茶の水女子大学、北海道大学、東北大学に各1名ずつ、千葉大学に6名が合格しております。

平成26年度、昨年度の国公立大学の合格者は、現浪合わせて46名でありましたが、今年度については現浪合わせて54名に増加いたしました。これは、浪人してでも自らの希望する難関大

学に行きたいという生徒が増えてきたというふうに考えられております。

続きまして私立大学についてですけれども、こちらのほうも早稲田、慶應、上智、ICUや、あとGMARCHと言われる学習院、明治、青山、立教、中央、法政という難関学力上位校に対して顕著な合格実績を示しております。特に国際基督教大学については1名増の3名、上智大が9名増の15名、立教大が1名増の30名、中央大が2名増の18名、学習院が23名増の38名といったところに合格数が伸びているところでございます。

このような良好な進路実績について考察いたしますと、1つは内進生と外進生、これは内進生というのは附属中から上がってくる生徒をこう呼んでおります。外進生というのは高校から入ってくる生徒をこのように呼んでいますが、この内進生と外進生の相乗効果が生み出す中高一貫教育によるものと考えられますが、実はそれだけではありません。生徒全員が受験する外部試験をいち早く導入し、指導と評価の一体化を図っている先進的な英語教育、また、プレゼンテーションやディベートなど、みずから発信する力、こちらを鍛え上げています。また、相手を説得する力、これを培う各教科や総合的学習の時間、または修学旅行や海外語学研修などの発表等、本校の教育プログラムが近年の改革が進む大学入試の方向性と合致しているためと考えられております。

中野委員長 それでは審議に移りますが、質問等含めまして何かございませうでしょうか。

明石委員 両校とも非常に頑張ってくれているという感じがして、感謝しております。そこでちょっと教えてほしいんですけども、市立稲毛高校で国際教養科に38名卒業生がいますね。大学名でなくて、どういう学部を受験するか、もしわかれば教えてほしいんです。千葉大の国際教養学部に入っているんですけども、これは内進生なのか、国際教養科なのかもし一緒にわかれば欲しいな。

植草稲毛高等学校長 まず、千葉大学国際教養学部については、合格した生徒は国際教養科だったと思います。あと、国際教養科の生徒については、やはり大学としては国際と名のつく学部、学科の大学が非常に多くなっています。例えば、早稲田であると国際教養学部ですとか、あと、立教の文学部ですとか、上智の外国語ですとか文学部、そういったところがやはりどうしても目立ってくると。

明石委員 それで、内進生の80名の学部というのは偏りがあるんでしょうか。それとも自然科学、社会科学でも均等にいつているんでしょうか。

植草稲毛高等学校長 内進生については、高校3年生のときに理系、文系という形で外進生と一緒にシャッフルした形になります。すみません、詳しい何人、何人という数字はないんですけども、大体均等に分かれていつています。

明石委員 次は意見なんですけれども、96万ぐらいの都市で、同じ普通科の大体レベルが同じぐらいのところで、果たして10年後もこのまま必要かなということをちょっと考えつつあったんです。数年前には稲毛を中等学校化にしようじゃないか、全クラス中高一貫にするとかという話がありました。そうすると国際教養科が今40名ありますよね。それで、これからグローバル社会でその特色を出していく前に一つのヒントになり得るかなというものがあります。確かにSSHと理数科の千葉と稲毛のグローバルというのは、それをもう少し特徴化にするには普通科が余りに多過ぎて、今は先行で走っていますけれども、10年後、これだけ生徒数が減っている中で一本で行くのか、それとも2つだけでも思い切って、市立高校だけでも違うのをつくっていくかというのがちょっと考えていましたので、質問させてもらったんです。

もう少し何とか大胆な発想はできないかなという感じがして、これだけ市立で頑張ってくれているんだから、それは今伸びているじゃないですか。そういう教員がいらっしゃるときにうまくできればなというのは意見でありますので、いつか議論したいと思っております。それが1点。

もう一点、私が気に入ったのは、市立高等学校の「STUDY RECORD」、いい。それを質問したいんですけども、これを生徒が書きますよね。先生は何回ぐらい見てくれて添削してくれるんでしょうか。

川崎千葉高等学校長 それにつきましては、昨年度導入しました。昨年度の段階では、学年によって、クラスによって対応がまちまちだったんです。今年に入りまして、1、2年生につきましては全てのクラスにおいて、担任が集めて、それをチェックして返す方法をとらせていただいています。

明石委員 高校の教育は変わってきましたね。

川崎千葉高等学校長 意識が非常に高いです。というのも、先ほど指導実績のとこ

ろでお話をしましたけれども、やればやっただけ返ってくるようなレベルの高い生徒を預かっているということを教諭が実感しております。さらに本校の特徴の一つであります部活動加入率が100%近いので、担任が見られない、副担も忙しいときには部活の顧問の先生がそれを集めていただいて返すというような方式も、縦糸と横糸で、そういった形で生徒の授業を見ていこうというような話を今、全校で共有しております。

明石委員 先生方が週1回見てくれるというのは、私が考えると、考えられない。大体、小学校の先生は熱心に添削してくれるんですよ。頑張れとか、はなまるとか。これを高校でやってくれるとね。これは、ぜひ私も短大で導入したいと思います。これは本当にすごいことです。

和田委員 これについてなんですけれども、効果は実際出てきているような声、数値では難しいと思いますけれども、これを導入してからの変化というのはありますか。

川崎千葉高等学校長 先ほど、昨年度クラスによって対応はまちまちだったということをおっしゃいましたが、きちんとやってくれたクラスもあります。やっぱりその担任、その生徒、その保護者というのはやってもらってよかったというようなことですので、これをきっちり続けることでそれなりの効果が出るものでないかと期待しております。

和田委員 教育委員の立場としてはすごくいいなと思うんですが、生徒の側からするととても書くのも大変で、部活もやって、勉強もして、またこれも書いて出さなきゃいけないと適当に書いちゃおうというような気持ちに私が生徒だったらなってしまうのではないかというふうに思ったので、ちょっと要らぬ心配をしてしまったところなんです、それほどじゃないんですね。

川崎千葉高等学校長 状況をしっかり見極めながら、生徒の状況を把握しながらやっていきたいと思えます。

和田委員 こういうふうに管理されることですごく伸びる子もいるでしょうし、逆にそうではないというタイプの子もいると思うので、一律に全員にやるのがいいのかということですか、手取り足取りやり過ぎてその後の人生に自分で自分を管理できないようなことになってしまうというような心配も一方であると思えます。そのあたりは状況を見ながら継続していただければというふうに要らぬ心配をいたしました。

川崎千葉高等学校長 ありがとうございます。

明石委員 実は、中学生の生徒指導もあるんですよ。女子中学生は物すごく熱心に書くけれども、男は特になし。それをそのまま放っておくからいけないんですよ。だから、これは教師の姿勢、本当添削というか、ずっと熱心に書いてくれればいい反応。ただハンコだけではだめですよ。

和田委員 見てくれているんだと思うと、やっぱりそれに応えようという気持ちになりますよね。

明石委員 だから、みんながやるというのはよくぞ高校の先生と感心して、今までは頑張る先生とそうじゃない先生とばらばらだったんですよ。だから効果なかったんですよ。スポーツ界では全部やっているんです。毎日、目標設定して、戦略を出して、具体的な日常生活を全部書かせる。それをコーチが全部添削するんですよ。そうしないと難しい。おっしゃるとおり。

和田委員 先生、大変ですね。

小西委員 そういった自己管理能力というのは大人になってから必ず必要なものですので、これが良いようにその自己管理能力に作用してくれるとすごく良いと思いますね。

明石委員 PDCAサイクルを高校で覚えてくれれば。

和田委員 本当ですね。

内山委員 これを見まして1つ思うんですけれども、タイムレコードがありますね。時間が書いてあるかと思うんですけれども、これでは夜遅くまで勉強したかどうかというのは大きな尺度になるんでしょうかね。見方としてどのような評価をするのか、ちょっとその辺のところを。

川崎千葉高等学校長 高校生にとって睡眠時間というのは非常に重要です。ですから、どちらかというとき間の時間というんですか、学校の行き帰りの電車の中とか、あるいは10分休み時間のそのうちの3分とか、そういったことをまずこれでやってもらいたいなという、そういう思いで。

中野委員長 ほかにいかがでしょうか。

和田委員 両校もしわかれればお聞きしたいと思うんですが、最近受験の形態が多様化している中で非常に指導の方法も難しくなってきたと思うんですが、一般入試ではなく、AO入試ですとか指定校推薦などで進路が決まっている生徒の割合というのはどのくらいいるかというのはわかりますか。

川崎千葉高等学校長 昨年、指定校は19人、それから公募推薦は6名、AOの入試で1名という合格状況です。

植草稲毛高等学校長 稲毛が昨年ちょっと少なく、この3月に少し多くなりまして、AOが9名、指定校が18名、公募制が24名になります。

和田委員 これからまた指導の方法も変わってくると思うんですね。それにご苦労があたりだと思います。

それともう一点、別の質問なんですけれども、浪人というか、進路が決定していないという生徒の割合なんですけど、稲毛高校では1割ぐらい、千葉高校で2割ぐらいということです。これは今までとそう変わらないのかということと、それから、ほかの県立高校、大体同レベルぐらいの県立高校と比べて多いのか、少ないのかということがわかれば教えていただければと思います。

川崎千葉高等学校長 千葉高校ですが、今年は進路決定率が79.3%で、去年は78.1%、一昨年、25年が80.6%でありますので、ほぼ同じと。

植草稲毛高等学校長 稲毛高校ですが、今年は少し、浪人が少なかったです。未決定率は去年は17.6%で、一昨年が15%となっています。あと、千葉市内の県立高校について、本校の進路部で調べたデータがございます。それによりますと、この3月ではなくて去年の3月になってしまいますが、県立千葉高校が現役の決定率が約60%、千葉東高校が約71%、千葉女子高校が92%、あと、千葉西検見川等になると90%を超えるということです。

和田委員 印象でしかないのですが、公立高校で浪人が案外少ないんだなというふうにずっと思っていましたのでお聞きしました。やはり国公立をこれだけ受けていて、これだけ進路決定ができるというのは本人の努力と、それからご指導のたまものだというふうに思いました。ありがとうございました。

中野委員長 最近の高校生は浪人を嫌う傾向があるんでしょうか。でも、県立千葉高校と県立千葉東高校の状況を聞く限りでは昔とそんなに変わっていないかなという気はするんですけども、一般的にはどうなんでしょうか。できれば現時点、例えば自分の志望レベルを少し下げてでも現役でという人のほうが今は多いんでしょうか。

植草稲毛高等学校長 稲毛高校の特徴として、実は先ほどの卒業生の人数でお話ししましたけれども、女子のほうがやっぱり多いという学校ですので、これは国際ということを売りにしていますので、どうしても

女子生徒が多くなっております。そのために、やはり安全志向というのは伝統的に強い学校です。ですから、昨年私は調べたんですけれども、同レベルのほかの県立高校、佐原高校ですとか木更津高校ですとか、長生高校等に比べると、やはり国公立のほうも若干少ないんですね。現役のほうは逆に稲毛は多いという形です。

ですから、結論から言ってしまうと、都内の有力私大に合格すればそれでよしとしてしまう傾向はやはり高いかなと。ただ、先ほども話したように、稲毛高校で国公立、現浪合わせて50名を超えたというのは初めてになります。ですので、そういう現浪合わせてになってきていますが、国公立志向がだんだん増えてきていますし、こちらの指導としてもそういう方向に今進んでいるということをご報告させていただきます。

以上です。

川崎千葉高等学校長 千葉高校もほぼ同様の傾向でございます。本校の場合は1年の最初のときに進路希望をとるとほとんど国公立大学を希望しているような状況です。そういった中で、一番希望が多いところにきちんと諦めずに最後まで行きなさい、考えなさいという指導はしております。

なお、浪人についてですが、これは先ほどちょっと教諭から聞いた話なんですけれども、浪人生を入れたところ驚くほどレベルが高い学校に進学しているというような状況もあるんです。ですので、力がありますので、より早い準備といいますか、スタートをさせることで現役のうちに希望のところに行けるというようなことのための指導をしていきたいというふうに思っています。

中野委員長 では、ほかによろしいですか。

明石委員 ちょっと余談ですけれども、私は両校が頑張っていると申し上げたのは、私の行っている敬愛高校というのが四街道にありまして、1学年13クラス、千葉県下でも多いところなんです。サークルボックスを潰して教室をつくっている。ところが国の補助金が減ってきたので、今年から11に戻したんです。

例えばMARCHでいいますと、稲毛高校が今年208名、市立千葉高校が306名なんです。かなり人気が出てきている千葉の四街道の千葉敬愛で約80名なんです。校長は、次は100名を目指しているんですね。だから、この稲毛と市立千葉というのは相当、10年前と比べると物すごく頑張ってくれているなというふうに伺っています。頭が下がります。

中野委員長 それでは、よろしいでしょうか。

報告第4号 千葉市育英資金支給条例施行規則の一部改正について

中野委員長 企画課長、説明をお願いします。

大橋企画課長 報告第4号「千葉市育英資金支給条例施行規則の一部改正について」、説明します。

千葉市教育委員会規則第3号、千葉市育英資金支給条例施行規則の一部を改正する規則、第3条第2項中「3万7,400円」を「5万9,500円」に改める、第4条第2項中「6,900円」を「5,000円」に、「6,700円」を「5,500円」に改める。

附則、この規則は平成28年4月1日から施行するとなっております。

中身をご説明させていただきますと、育英資金、千葉市の給付型で高校生に支給しているものがございます。こちらは年12万円を支給する制度となっております。こちらは以前からある制度でございますが、2年前から国のほうの給付型、奨学のための給付金という制度がございまして、そちらが平成28年度に第1子に支給する額が3万7,400円から5万9,500円に国費の支給額が上がったことに伴いまして、支給額が変わることでございます。

第4条のほうは月額で定めておりますので、各月5,000円、また、3月は端数が出るものですから、5,500円が支給額となる改正をさせていただくものでございます。

中野委員長 それでは審議に移りますけれども、質問等含めまして何かございますでしょうか。

それでは、以上で本日の議事日程記載の案件に係る審議が終了いたしました。委員の皆様、ここまででその他としてご意見、御質問等、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

8 その他

(1) 学校教育における郷土教育の推進について、指導課長から報告があった。

福本指導課長 ただいまお手元に資料を配らせていただいております。

郷土の教育につきまして、千葉市立の小中学校における取組みについてご報告いたします。

まず、お手元に今配付させていただきました漫画「千葉常胤公ものがたり」についてですが、今月の8日に都市アイデンティテ

推進室より各学校に配布いたしました。配布数につきましては、学校規模に応じて小学校20から80、中学校5から10、それから特別支援学校に10部配布いたしました。その他として郷土博物館、公共の図書館、公民館等にも配布しております。追加として、小学校6年生の児童数分を追加配布することが決定しております。漫画は電子書籍、漫画動画でも配信されており、それぞれの学校での千葉氏の理解、学習において活用が期待されているところです。

次に、小中の授業に関する取り組みですが、まず小学校における取り組みですが、3年生の社会科の地域学習で、指導課作成の副読本「わたしたちの千葉市」を活用して、千葉市ゆかりの史跡や祭りなどについて学習しております。6年生の社会科では、平成27年度の小学校の年間指導計画において、「武士の世の中へ」という題材で指導時数を1時間ふやして、計6時間、鎌倉幕府の政治に貢献した千葉常胤の活躍を取り上げるよう、実践事例とともに示しております。その際に、今お配りしました漫画も資料として活用ができます。

中学校の取り組みですが、平成28年度の中学校年間指導計画、歴史分野において、鎌倉幕府の成立と千葉常胤として位置づけ、指導課が作成しています副読本「のびゆく千葉市」を活用して学習する機会を設けております。

さらに、中学校3年生用の道徳教材「千葉市に生きる」においても千葉氏を取り上げております。

教師用資料としましては、お手元に配らせていただきました指導課作成の「これでわかった千葉氏」及び「ぜひ行ってみたい市内の史跡ベスト4」、これを配布するほか、教育センターの専門研修で郷土教育の講座を開催するなどの予定が組まれております。

今後は初任者の研修にもこの漫画を使用していきたいと考えています。

そのほかですが、加曾利貝塚に関する学習については、小学校中学年から主に総合的な学習の時間、小学校6年生から中学校では、社会科の年間指導計画に位置づけて加曾利貝塚博物館の協力を得ながら校外学習の受け入れ、出前授業の実施などをしてもらうほか、社会科の指導資料集を活用して学習内容の充実を進めております。今後も関連する指導事例を集めて各学校に示していく

ことにより、郷土に関する教育の充実に努めてまいりたいと思っています。

以上でございます。

中野委員長 ただいま説明がありましたけれども、質問を含めまして何かございますでしょうか。

小西委員 先ほど、小学校で児童数配布予定ということだったんですけれども、小学校1年生から6年生まで一人一人配布ということになるんですか。

福本指導課長 6年生の児童数になります。6年生の児童数分を学校に配布しておけば、毎年6年生がそれを活用することができます。1年生から6年生の生徒数分ではありません。個人ではなく、学校にということですよ。

小西委員 なかなか図書館に設置だけしておくのと手にとりにくいかなと思うので、実際に授業の中でやっぱり活用して手にとるというように工夫していただければなと思います。

福本指導課長 はい。

中野委員長 一般市民の方が見るには、やっぱり図書館とかそういうところで見ることになるのでしょうか。直接これを手に触れるということは、一般市民の人は難しいですね。

福本指導課長 現状、図書館、それから公民館等にも置いておりますが、今後、その辺のところについても検討することになるかと思えます。

和田委員 ホームページとかでちょっと概略とかでも見られるといいですね。全部は無理でも。

芦田文化財課長補佐 ホームページ上で今、全部見られるようになっております。簡単な画像を使った動画も見られる、ユーチューブでも見られるという状況です。

和田委員 それは、すごく宣伝したらいいですね。これが手に入らなくても、そういうことでね。

明石委員 非常に出来がよろしいので、今ちらっと見たんですけれども、このストーリーの監修は誰がされたのか。千葉市では千葉氏の研究で2つのグループがありまして、何か知らないけれども困っている感じがするんです。けれども、この裏を見たら漫画でコヤマさんという方が書いて、それで市長部局がやっていますよね。普通こういうのは監修というのがつくんだけれども、つかないのか。もしこれがおかしいと言われたとき誰が、教育委員会は当然関与していないんだから、市長部局が保護者の質問に答えてくれるの

か。要するに、副読本なのか、何かパンフなのか、どういう形で学校に配布したのかがわかれば教えてください。だから、監修とかその配布の仕方を、良いことだと思うんですけども。

芦田文化財課長補佐 これをつくるときに、27年度中に作成しなければいけないということで、11月ぐらいから推進室を中心に動き始めたんですけども、監修という話も一時、必要ではないかという話が出ました。しかし、ちょっと時間的に厳しいという事になりまして、市の中で郷土博物館であるとか、指導課であるとか、文化財課であるとか、関係課が集まって、できるだけその時代考証的なこととか歴史的な内容のことを内部で詰めてつくったということでございます。特に監修に特別な歴史の先生方をお願いしたということでは、今回はございません。

明石委員 老婆心ながら、6年生あたりは歴史を勉強していますから先生に質問しますよね。その質問に対して教師が答えないときは教育委員会なのか、教育センターなのか、文化財課なのか、そういうコールセンターをどこかに置いておかないと困るでしょう。

志村教育長 指導するとなれば指導課です。ですから、その資料等をつけたのは、そういう部分で、先生方のためにつけたので、これは子どもたちにつけたわけではありませんから、それでサポートしてもらうことになります。学習後、もっと詳しく知りたい方は郷土博物館に行って担当に聞くとか、それも子どもの学習だろうと思っています。

それと、どちらが定説かとか、その難しいところについては、学校の対応ができない部分もあります。ただ、一応、今回わかりやすくまとめたものが子どもたちに示すことができたので、まずは関心を持ってくれることが一番大事な狙いじゃないかと思っていますので、そうした面では、これまではなかなか扱えなかった部分も指導できるようになったので、市長部局の努力に感謝したいと思います。

和田委員 諸説ある中でさまざまな資料を参照し、総合的に判断して作成しましたと書いてあります。

志村教育長 後でいろんなことを言う方もいらっしゃるからね。

和田委員 ここだけは行っておきたい千葉市伝説の地ですとか、それから、教師用ぜひ行ってみたい市内の史跡ベスト4というのがあって、これは先生方にまず興味を持っていただくのにいいなと思いました。夏休みの専門研修の中で先生方が市内のあちらこちらを

回るような研修が今までにもあったと思うんですが、その中でこういった場所を今までにもあったか、それとも今後、ここを重点的に取り入れるというような計画があれば教えていただきたいのですが。

増澤教育センター所長 平成27年度は初任者を中心に史跡をめぐるしました。これは今年もやるつもりでおりますが、例えば加曽利貝塚に行くとか、大賀ハスを見に行くとか、そういう形で実施します。そのほかに専門研修の中でも、基本的に郷土教育の部分についてはきちっとやっていくということで考えております。よろしく申し上げます。

和田委員 初任者研修は全員ということですか。

増澤教育センター所長 はい。

和田委員 わかりました。まず先生が興味を持って、先生に知識がないと子どもたちに伝わらないと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

志村教育長 ちなみに、この漫画というか、物語は市長講話の日に全員に渡すことになっています。なお、先週行われた第一回の初任者研修は、ちょうど4月15日でしたので、市政だよりも今回かなり詳しくいろいろな部分を載せられるようになっていました。そこでそれを私のほうから配って、千葉市を少し知るようというお話してお話し申しました。初任者の半分以上が千葉市出身者ではないので、千葉のことを全くわからない状態で先生になっています。そのところはまず手始めに始めています。

中野委員長 では、よろしいでしょうか。

(2) 第5回定例会は、平成28年5月18日（水）午後2時より開催することと決定した。

9 閉会

中野委員長より閉会を宣言